実施日：令和８年９月 23 日(水・祝日)　　天　候：晴天
当日参加者：40 名
行　程：約 4.0 ㎞（午後から）
講　師：清水 昭博氏（帝塚山大学　文学部教授、考古学研究所長）



飛鳥の考古学～蘇我氏と甘樫丘周辺の遺跡～

帝塚山大学と古都飛鳥保存財団連携で、公開講座＆ウォーク「飛鳥の考古学」を実施しました。午前中は座学講義（明日香村中央公民館）で午後からはウォーキング（明日香村内臨地講座）です。

【午前の部】

明日香村中央公民館にて、帝塚山大学清水先生の講義です。飛鳥時代、飛鳥盆地の西を画する甘樫丘には、蘇我蝦夷・入鹿親子の邸宅があったことが『日本書紀』に記録されています。また、甘樫丘周辺の発掘調査では飛鳥時代の邸宅、古墳など貴重な遺跡が多く発見されています。今回の講座では甘樫丘に拠点をおいた蘇我氏と甘樫丘周辺の遺跡の関係を学びました。



【午後の部】

昼食後、座学で教えて頂いた甘樫丘周辺の臨地講座です。晴天に恵まれ、ウォーキングには最適のお天気でした。まずは菖蒲池古墳へ向かいました。先生の解説の後は、玄室をのぞき込み、家形石棺が２基、縦に並んで安置されているのを確認しました。少し場所を移動し、小山田古墳の説明です。出土物から７世紀前半頃の築造と推定されますが、１辺が約 70 メートル以上の大型方墳です。削平され完全な形ではありませんが、大型古墳が築造されなくなる時代において、この規模感は被葬者を推測するうえで重要な要素です。また、決定的ではないが、清水先生ご専門の「瓦」の視点からは、蘇我氏に関係する古墳とみるのが良いのでは…との事でした。学校の敷地内のため、フェンスの外側から大きさを確認しました。

菖蒲池古墳





小山田古墳



甘樫丘東麓遺跡



平吉遺跡

次に向かったのは、甘樫丘東麓遺跡です。蘇我蝦夷と入鹿の邸宅があった場所として、有力な候補地です。甘樫丘の麓をたどって、平吉（ひきち）遺跡に移動しました。平吉遺跡からは瓦も出土し、豊浦寺との関係が深いことも分かっています。良いお天気でしたので、休憩と水分補給の後、再出発です。







↑　甘樫坐神社

←　豊浦寺跡（向原寺）

　次は豊浦寺跡・豊浦宮跡です。豊浦寺の伽藍配置を確認した後、甘樫坐神社の境内で解説を聞きました。その後、甘樫坐神社から豊浦駐車場まで歩き、豊浦駐車場から古宮土壇を見ながら解説を聞いて臨地講座終了です。

古宮土壇



　バス停でご参加された方々とお別れの挨拶をして共催イベントが終了しました。とても有意義な一日を過ごすことができました。

　ご参加された皆様お疲れ様でした。帝塚山大学の清水先生、職員の方、本当にありがとうございました。

またのご参加をお待ちしております。